

60th
Anniversary

直方鉄工青年会
創立60周年記念誌

瑞雲

～ 第120号 ～

瑞雲：めでたいしるしの雲の意

CONTENTS

- P.2 | 君が代・直方鉄工青年会の歌
- P.3 | 会長挨拶
- P.4 | 創立60周年を祝して
- P.8 | 歴代会長紹介
- P.20 | 直方鉄工青年会を卒業された皆様
- P.23 | 正会員紹介
- P.34 | 特別企画 座談会
- P.40 | 1年間の事業風景
- P.52 | 編集後記

君が代

直方鉄工青年会の歌

君が代は

作詞 飯野 大三郎
作曲 伊田 三千代

千代に八千代に

一 福智の山が 呼ぶ朝に 心は躍る 気もはずむ
若き世代を 担うもの 集う 我等は 鉄工青年会

さざれ石の

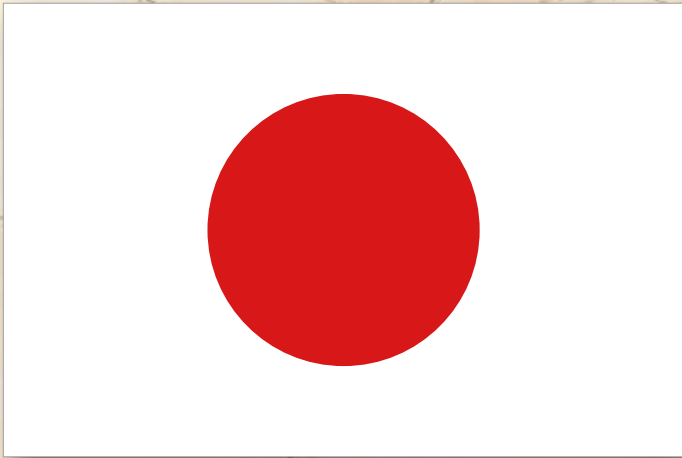
二 未来を夢み 幸せを 求めて 尽きぬ 心意気

巖となりて

苦しき道も 耐えしのぶ 進む 我等は 鉄工青年会

苔のむすまで

三 時代はうつり 時は去り 力をあわせ はげみゆく
明るき 筑豊に 光さす あゝ我等は 鉄工青年会



直方鉄工青年会 会長挨拶

直方鉄工青年会 第60代会長 大田 幹治

スローガン 前進 ～積み重ねの先に未来がある～

この度、直方鉄工青年会は、創立60周年を迎えることができました。これもひとえに親団体であります直方鉄工協同組合をはじめ、関係諸団体の皆様、そして諸先輩方のご指導並びにご支援の賜物と深く感謝申し上げます。また、60周年記念式典及び記念事業等を執り行うにあたり、皆様方より多大なるご協力を賜りましたことをこの場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

直方鉄工青年会はエネルギー革命によつての石炭産業崩壊による不況の中、昭和39年9月に鉄工業界においての経営諸問題に関する調査・研究・会員相互の錬磨・親睦・啓発に努め、地域社会の政治・経済・社会・文化等の発展を目的として発足されました。これまでの60年間、多くの困難な時期も多々あったかと思いますが、会の歴史・伝統を繋いでこられた諸先輩方に会員一同心より感謝申し上げます。

発足後60年経つ現在、世界は地球規模で日々目まぐるしく変化をしています。ここ10年を振り返りますと、近年では予想だにできなかった新型コロナウイルス感染症による世界的パンデミックが起これ我々の生活にも大きな影響を及ぼしました。多くの企業が困難な状況に置かれる中、我々青年会もリモートでの活動にシフトするなどして情報共有を行い、会員同士の絆を深める努力を続けてきました。

また、悲惨な紛争が世界各地で起こっています。紛争は人の手によって引き起こされたものであり、歴史は繰り返すといいますが、人は歴史に学ばなければなりません。今回は結果として驚異的な物価高という形で私たちの仕事や生活にも打撃を与えています。

これまでいつの時代にも困難は訪れていますが、この自分たちの手では抗うことのできない困難な経験は我々会員にとっては対処していく力をつけるチャンスでもあると考えます。変化があった時に「時代が変わった」という言葉がよく使われますが、昨今の変化のスピードはそのような言葉では括れない大きなうねりのようなものを感じます。我々にとっては脱炭素社会の推進やデジタル化の進展も時代の変化の一つであり、そうした中、我々会員は会社を守る立場の人間として時代の流れを迅速に掴み、またそれに沿える団体が在り続けなければならないと思っております。

この先、我々を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、中小零細企業にとって様々な経営課題・問題は山積みです。鉄工青年会においても、少子化等による後継者不足問題という流れの中、会員減少といった問題が常につきまとい会の存続すら危ぶまれる時が来るかもしれません。しかしこういう時だからこそ、なぜ60年もの間歴史が繋いでこられたのか青年会の存在意義を今一度確認すると共に、伝統と時代の変化の融合にこれからも勇気をもって挑戦し続けてまいります。

最後になりますが、この先70周年更には100周年へと前進し続けて行く為にも諸先輩方の意志を受け継ぎ、会員同士これまで以上に自己研鑽に励み自身の魅力を高めていく所存です。皆様方にはこれまでの感謝を申し上げますと共に、これまでと変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

創立60周年を祝して



自由民主党 最高顧問
衆議院議員
麻生 太郎

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

直方の鉄工界は明治時代より長きにわたる歴史があります。そうした激動の時代の変革の中、昭和39年直方鉄工界の未来を築くべく、情熱と使命を持った若者達によって直方鉄工青年会が発足されました。以来60年、業界発展への研鑽及び会員相互の交流を深め、更には地域社会への貢献を目的に事業を展開されておられます。その歩みに深甚なる敬意と感謝を表します。

今日の日本や直方の発展を支えて来られたのは、中小零細企業の皆様の懸命なご努力のお陰であります。今では新たな技術開発も成されていますが、先達が築いてきた知識や技術を研鑽し次世代へと代々継承され、その技術は更に進化を遂げると共に日本だけの技術を生み、それを造り出す職人と呼ばれる技術者を育ててこられた。そういった力が皆様や日本にはあり、それが世界に誇る日本のものづくりの強さであります。

今後とも鉄工青年会の皆様におかれましては、時代が急速に変化をする中にありますが、お互いに情報交換をし経験を積み重ね、新しい技術を更に取り入れ、新しい概念を持つと同時に、古き良きものは守り続ける青年会として更にご活躍されますことをご期待し、社業及び青年会の更なるご発展を心から祈念申し上げ、私のお祝いの言葉と致します。



れいわ新選組
参議院議員
大島 九州男

直方鉄工青年会創立60周年誠におめでとうございます。記念誌の上梓にあたり心よりお祝い申し上げます。

これまで地域産業の発展に貢献してきた直方鉄工青年会の諸先輩方並びに、関係各位に深く敬意を表しますとともに、60周年を機に皆様のさらなる飛躍をご祈念申し上げます。

私自身35代目の会長として関わらせていただきました。その貴重な経験は政治家となった今でも大変活かされております。ひとりひとりが企業のトップである青年同士が、先輩後輩としての関係性を大切にし、絆を深め様々な事業を進める中で学んだ事は、多様な人々の願いや要望を受け実現していく政治の世界では大変参考になりました。

地元直方は、石炭産業から製造業、次世代産業などへ転換を遂げ、これからのエネルギー政策の大きな方向性の中で、鉄鋼界の果たす役割は大変大きなものがあります。今後の世界の発展のため、直方鉄工青年会の後輩の皆さんの力を最大限に発揮されて、地元、さらには日本の発展のため尽力されますことを心から願っております。



福岡県知事
服部 誠太郎

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

貴会は、昭和39年に、若い世代の皆さまが鉄工業界におけるさまざまな問題の意見交換を行う場として発足され、経営などに関する調査や研究、会員相互の錬磨・親睦・啓発に取り組み、60年の長きにわたり地域の発展に貢献してこられました。大田会長をはじめ、歴代の役員ならびに会員の皆さまのご尽力に対し、心から敬意を表し感謝申し上げます。

県内企業の99.8%を占める中小企業は、地域の経済を支えてこられました。本県経済がさらに発展していくためには、その原動力である中小企業のさらなる成長が不可欠です。

県では、家業の後継者が経営資源を生かして新事業に挑戦する皆さまを「アトツギベンチャー」、第二創業など新しい分野に挑戦する皆さまを「サッシンベンチャー」と名付け、未来へのチャレンジを応援する伴走支援プログラムを行っています。

このような県の事業も活用いただきながら、皆様の持ち前の情熱、若者らしい柔軟な発想と行動力で、地元直方経済、そして本県経済の発展につながるご活躍を大いに期待しています。前を向き、未来を見据えて、共に「前進」してまいりましょう。

結びに、直方鉄工青年会のさらなるご発展と、会員の皆さまのご活躍とご健勝を心から祈念いたします。



直方市長
大塚 進弘

創立60周年、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

石炭産業崩壊の中、新しい展望を開くため設立されて以来、会の目的である経営、その他諸問題に関する調査、研究等事業を継続され、60年の長きにわたり本市の基幹産業として、地域経済の発展に寄与して来られましたことに、改めまして、敬意を表する共に感謝申し上げます。

さて、今世界では、自然環境や社会経済環境が大きく変化する中、持続可能な発展を目指す取り組みが求められています。併せて本市製造業を取り巻く環境においても、人口減少が続く日本社会で、「ヒト」の確保の困難さに直面すると共に、急速に進む第四次産業革命への対応が求められています。そのため私たちは、冷静に状況を分析し、自分たちの強みを生かした戦略を立てる必要があります。

本市におきましても、こうした課題に対し取り組む、将来を担う若い経営者の皆様の事業成長や人材育成の戦略を積極的に支援して参ります。

貴会におかれましては、60年の歩みを止めることなく、若さが持つエネルギーと情熱により未来を拓いていただくこと、併せて会員企業の更なるご発展を心より祈念し、お祝いの言葉と致します。



福岡県議会議員
香原 勝司

直方鉄工青年会の創立60周年、誠にありがとうございます。

人であれば「還暦」という大きな区切りの年を迎えられ、会員の皆様におかれましては、思いを新たにされていることと心よりお慶び申し上げます。

貴会が設立された昭和39年当時は、日本が高度経済成長への道を歩み始める一方で、筑豊地域がエネルギー革命による炭鉱の相次ぐ閉山で地域経済が疲弊していく最中でもありました。

そんな激動の時代から今日まで、直方の鉄工界に脈々と流れる「ものづくり」の精神を受け継ぎ、個々の弛まぬ努力と会員同士の固い結束で、直方の基幹産業である鉄工業に新たな息吹を吹き込んでこられた皆様方の熱意に心より敬意を表する次第です。

グローバル化の進展により、企業を取り巻く環境も、地球レベルでの競争に直面されていることと存じますが、若手経営者の柔軟な発想とその行動力で、直方の鉄工界延いては地域経済や社会のため存分に力を発揮されることを切に願っています。

私も地域選出の県議として全力で貴会を応援してまいる所存であり、直方の鉄工界発展がこの地域の産業振興そして県政全体の発展にも大きく寄与するものと確信しております。

終わりになりますが、直方鉄工青年会の今後益々のご発展と会員の皆様のご活躍をご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶と致します。



福岡県議会議員
花田 尚彦

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昭和39年(1964年)、エネルギー政策が「石炭から石油へ」と大きく転換し日本が高度経済成長期を迎える中、長い伝統を誇る鉄工界の発展のために輝かしい未来に向けて貴会は充足されました。以来60周年を迎えられた今日までの歩みに心から敬意と感謝を表する次第でございます。

多様な専門分野を持つ企業が集まり協力し合い、金属製品から精密機械、自動車部品まで幅広い製品を生み出す「ものづくり」の技術力は、我々地域の誇りであると同時に、福岡県・九州にとっても大きな財産であります。現在は急激な物価・資材高騰や加速度的に進む人口減少の状況に直面した目まぐるしく変化する社会情勢の中ではありますが、皆様の挑戦が日本のものづくり産業全体を牽引し、より豊かな社会の実現につながることを願っています。私も県議会議員として、皆様とともに各種課題に取り組んで参る所存です。

結びに、直方鉄工青年会の今後益々のご発展と、会員皆様のご活躍、ご健勝を心より祈念申し上げ、私の祝辞といたします。



直方鉄工協同組合
理事長
吉田 祐司

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられた事を、心からお祝い申し上げます。

組織の陣頭に立つ第60代大田会長を初め、それを支える副会長や会員の皆様のご努力に衷心より敬意を表したいと思います。

1964年鉄工青年会は誕生しました。当時の日本経済は東京オリンピックブームの中で経済を支えてきたものの、高度成長の行き過ぎで金融が引き締められ、景気が急速に後退し、設備過剰が表面化して深刻な影響を受けた時代でした。この様な状況の中、若手経営者や後継者を集め「刻苦勉励」(苦しさに耐えながら仕事や勉学に励む)を目的に発足致しました。

その目的を達成する為、発足以来今日まで「業界に於ける経営や諸問題に関する調査・研究、会員相互の錬磨・親睦・啓発、地域社会の政治・経済・社会・文化等の発展を図る」等々を基本理念とし常に自己研鑽を行いながら自らを鍛え特定分野の学問や技術の向上を図り、知識を深めて来られた事と思います。

30年前私は30周年担当副会長として色々勉強させていただきましたが、当時の経済状況と今と比較すると大きく変化している様に思えます。昔より今の時代の方が経営環境はより難しくなっているのではないのでしょうか。

産業の空洞化から製造業の国内回帰と言われるものの、人口減少に伴う人材確保、外国人労働者問題、為替の問題、保護主義国に押される関税の問題、国内最低賃金の上昇、インフレの加速、若者の製造業離れ、海外勢力との技術力・情報力・人材力格差など我々企業へ及ぼす課題は大きくなってきております。

この様な国内や世界情勢から我々中小零細企業を存続させるには、青年会として日頃から行われている「刻苦勉励」で乗り切れる事と信じております。大田会長のスローガンである「前進・積み重ねの先に未来がある」です。地道に課題解決に向けて取り組みれば必ずビジネスチャンスは訪れる事でしょう。自らの成長戦略をしっかり見定め取り組んでいただきたいと願うばかりです。

結びになりますが、日頃の青年会の活躍がりに感じていると同時に、諸先輩と皆様方が築かれた鉄工青年会が、この60周年を契機に、更に揺ぎ無い確固たる会に発展する事を祈念して私のお祝いの言葉と致します。



直方商工会議所
会頭
谷 弥壽彦

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

直方鉄工青年会におかれましては、昭和39年に設立されて以来60年に亘り、直方市の基幹産業である鉄工業界の発展に寄与され、また次世代を担う若手後継者の方々は技術の向上に努められ、その活動は地域の経済界からも高く評価を受けておられます。このことは、歴代会長をはじめ会員皆様方の日頃のご努力の賜であり、心から敬意を表します。

直方鉄工青年会が設立された昭和39年当時の筑豊地域は、政府による石炭合理化政策が進められ、鉱山機械製造を専門にしていた直方鉄工界は打撃を受け、炭鉱機械から一般機械へと転換する中、鉄工界の中核として若い力で直方の「ものづくり」を支えてこられました。

近年では、自動車産業の集積が進み、医療機器やロボット産業の振興など、新たな産業に向け、積極的に取り組んでおられます。特に、製造業におきましては、IoT、AI等のIT技術導入により、ものづくり技術の革新的な生産性向上が見込まれ、今後の進展が大きく期待されています。このような時こそ、若い皆様方の柔軟な思考力と行動力が「ものづくり」に不可欠であると思っております。

最後になりましたが、直方鉄工青年会が今後益々、組織の強化と技術の向上を図られ、直方鉄工界の発展に大きく寄与されることを祈念いたしまして祝辞とさせていただきます。



一般財団法人 直鞍情報・産業振興協会
直鞍産業振興センター センター長

神谷 昌秀

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

貴青年会は、1964年に直方鉄工協同組合の若手組織として発足され、直方市とその近郊の鉄工業界の若手経営者や管理者を会員として、会員同士の交流やスキルアップ、地域社会への貢献などを進めて来られました。

直方が鉄工の街と呼ばれるのも、これまでの貴青年会の努力が大きく地域社会に貢献している証だと痛感しています。また同時に、歴代会長をはじめ、役員や会員皆様のご尽力の賜物であると、大きな敬意を深く胸に刻んでいます。

私は、これまで多くの学協会と関わってきましたが、鉄工青年会の60年、そして、鉄工協同組合の120年を超える歴史は比類がない、壮大で卓越したものです。

創立60周年を大いに祝いすると共に、これまでの「研修・研鑽」、「地域・社会貢献」、「交流・親睦」を堅持されることで、会員皆様の更なる発展と、鋭い矢じりのように地域を牽引する組織となって行かれることを心から祈念しています。

今後の直方鉄工青年会に、弥栄あれ！



一般社団法人 直方青年会議所
理事長

佐藤 雄基

直方鉄工青年会が創立60周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

創立から今日に至るまで地域社会の発展にご尽力されてきた諸先輩方の功績に心より敬意を表すると共に、伝統を継承し、強い志、力強い発信をされております現役会員の皆様に重ねてお祝い申し上げます。

本年、貴鉄工青年会におかれましては、大田会長のもと「前進」をスローガンとし、地域発展のまちづくり、ひとづくりの主役として地域の未来を大切に運動、活動を展開されているとお聞きしています。

直方青年会議所としましても、貴鉄工青年会創立60周年記念式典におかれましては、独創的かつ創造的で大変参考になります。今後もお互いに切磋琢磨し合って、永遠のテーマでもあります「地域の魅力創造」の実現に貢献できるよう展開して参りましょう。

最後になりますが、大田会長率いる直方鉄工青年会の今後益々のご発展とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



宮若商工会議所青年部
会長

原賀 一

直方鉄工青年会の皆様におかれましては、創立60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。昭和39年の創立以来、会員の皆様の熱意と努力、そして結束力のもと、貴会は鉄工業界を支える若きリーダーの集いとして、地域経済の発展と業界の基盤強化に多大なる貢献をされてこられました。この歴史ある歩みを尊敬の念をもって拝見し、心より敬意を表する次第です。

私共、宮若商工会議所青年部も令和4年に創立40周年を迎えることができましたが、貴会の長い歴史と活躍をお手本としながら、地域の発展に向けて努力を続けて参りたいと存じます。

これからも、直方鉄工青年会の皆様がこれまでの歴史と伝統を礎に、さらなる飛躍を遂げられることを心よりお祈り申し上げますと共に、同じ青年経営者団体として連携を深めながら地域の発展に共に邁進していければと願っております。

結びに、直方鉄工青年会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

歴代会長紹介



初代・第2代会長
村井 博



第3代会長
大田 正男



第4代会長
飯野 精一郎



第5代会長
村口 豊



第6代会長
佐田 正兼



第7代会長
小野原 計顕



第8代会長
飯野 大三郎



第9代会長
若林 武己



第10代会長
弘 幸泰



第11代会長
石橋 勲



第12代会長
大島 誠三



第13代会長
井上 準一郎



第14代会長
山本 忠志



第15代会長
内藤 博俊



第16代会長
高野浦 篤



第17代会長
内藤 剛



第18代会長
弘 信之



第19代会長
村井 武久



第20代会長
浅田 毅



第21代会長
石松 徹也



第22代会長
渡邊 泰輔



第23代会長
岩野 博之



第24代会長
西尾 英治



第25代会長
倉田 義重



第26代会長
高倉 定



第27代会長
細田 章



第28代会長
坂田 幸一



第29代会長
得居 慎一



第30代会長
村井 昇



第31代会長
吉田 祐司



第32代会長
篠崎 光繁



第33代会長
飯野 泰造



第34代会長
村上 勇



第35代会長
大島 九州男



第36代会長
矢山 真人



第37代会長
矢野 清一郎



第38代会長
澁谷 昌樹



第39代会長
飯野 一義



第40代会長
福山 貴信



第41代会長
貫里 英樹



第42代会長
浅田 晋右



第43代会長
石松 慶裕



第44代会長
黒岩 義泰



第45代会長
栞原 英年



第46代会長
石橋 和彦



第47代会長
花田 勇平



第48代会長
田淵 元悟



第49代会長
福田 雄介



第50代会長
高倉 章史

平成26年4月
～
平成27年3月

絆

～ keep on smiling ～





第51代会長
石橋 寛之

平成27年4月
～
平成28年3月

魁ける

～志高く、面白く～





第52代会長
内藤 誠治

平成28年4月
～
平成29年3月

新生

～ 継承と挑戦 ～



感謝

～半歩先の自分へ～



第53代会長
吉井 勇

平成29年4月
～
平成30年3月





第54代会長
得居 剛

平成30年4月
～
平成31年3月

継承

～先を見据え、いま成長の時～





第55代会長
水摩 竜登志

平成31年4月
～
令和2年3月

志

～やるときは全力で～





第56代会長
得居 健

令和2年4月
～
令和3年3月

進歩

～人との絆を大切に～



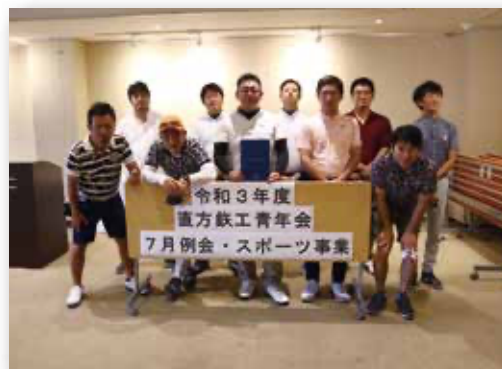
常笑前進

～明るく前向きに～



第57代会長
得居 健

令和3年4月
～
令和4年3月





第58代会長
小野 龍平

令和4年4月
～
令和5年3月

魅学

～己を魅がき、絆を結ぶ～



友情

～切り開こう新時代～



第59代会長
石原 一伯

令和5年4月
～
令和6年3月



直方鉄工青年会を卒業された皆様



大田正男



吉田喜六



石本高由



飯野精一郎



高瀬茂



平田強



村井博



松井勇



磯辺秀久



梶田重臣



大谷津留美



福永辰雄



佐田正兼



小野原計顕



村口豊



根葉行富



田中進



南和彦



福田隆彌



大田雅毅



若林武己



矢野正巳



弘幸泰



飯野大三郎



西河良幸



大島誠三



梶田省司



石橋勲



堀尾斉



井上準一郎



山口賢次郎



森山元



山本忠志



大屋正信



内藤博俊



林英雄



春田勇一



伊藤清治



田中英雄



舛田浩二



半田景久



高野浦篤



窪田輝幸



福山盛樹



田淵久登



藤永敦彦



石松徹也



福山和義



渡邊泰輔



吉田幸太郎



内藤剛



井上進



嶋津秀生



弘信之



牛島和弘



花田人士



高原威稜男



村井武久



栗原康之



倉田義重



岩野博之



阪和彦



西尾英治



浅田毅



古野豊満



高倉定



元重一彦



細田章



須藤心一



高瀬武法



吉田一



坂田幸一



高倉堅



竹内満



松井明



栗原敬一郎



沢本哲二



大田譲治



村井昇



村井雅博



得居慎一



安永充孝



友原清年



幸田良一



得居悦二



金谷保



安部田雄二



吉田祐司



船津和行



細田宏



篠崎光繁



飯野泰造



荻野毅



村上勇



加藤勝也



西田義治



伏原一好



名島憲次



奈木野正照



澁谷昌樹



植木剛



大島九州男



貫里英樹



吉川祐二



矢山真人



伊藤龍一



矢野清一郎



小出恵二郎



平城則文



藤永勝巳



伊藤聡



黒岩義泰



飯野一義



岡村二郎



福山貴信



中村大志



山口高広



栗原英年



石橋和彦



和才敏之



有吉慶祐



浅田晋右



松村圭吾



石松慶裕



元島順也



内藤誠治



山本修二



新栢達也



神谷俊喜



花田勇平



田淵元悟



福井賢太郎



福田雄介



高倉章史



石橋正彦



桑原俊晃



石橋寛之



吉井勇



足立壮生



得居剛



写真は過去の周年記念誌及び
瑞雲に掲載されたものより転載



正会員紹介

①生年月日 ②業種 ③好きな言葉 ④社業における自分自身の目標



大谷鉄工(株)
金谷 光真

- ① 1982. 11. 28
- ② 機械加工
- ③ 努力は裏切らない
- ④ 同業他社が不可能という仕事に積極的にチャレンジし、日本屈指の加工技術を持つ会社となる。



(有)川原工務店
川原 裕樹

- ① 1986. 8. 19
- ② 建築業
- ③ 義理人情
- ④ お客様の志向を形に変えて、期待を超える提案・物造りをしていきたい。



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(有)九州機械

貝島 一徳

- ① 1983.9.18
- ② 機械販売
- ③ 無私無偏
- ④ 環境の変化に対応し、顧客のニーズに応えられる商品や情報の提案を行う。



九州鑄鉄管(株)

山口 昂佑

- ① 1993.12.9
- ② 鑄鉄管製造業
- ③ Just do it(とにかくやってみる)
- ④ 恒久的に会社を存続・発展させる体制と仕組み作り。



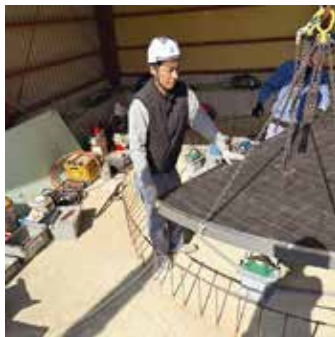
※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(有)坂田工務店

坂田 一生

- ① 1982. 5. 10
- ② 土木工事業、建築工事業、機械器具設置業
- ③ 土魂商才
- ④ 鞍手町建設業界における
リーディング企業へと成長させる。



誠心物流(株)

岩見 英樹

- ① 1984. 6. 28
- ② 運送業
- ③ 「人の努力・痛みを知りなさい」
- ④ 現状に満足することなく常に変化を求め、
変化を拒むのではなく、それを柔軟に吸収する。



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(株)筑豊産業

小野 龍平

- ① 1980.12.21
- ② ガス配送、車両整備
- ③ 情熱
- ④ 会社で働くみんなと夢に向かっていく。



東亜工業(株)

大田 幹治

- ① 1986.2.18
- ② 機械加工
- ③ 明日やろうは馬鹿野郎
- ④ 社業を充実させ持続させること。



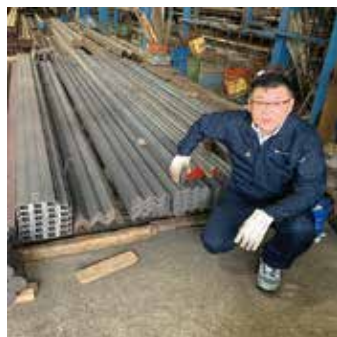
※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(株)得居商店

得居 健

- ① 1980. 7. 19
- ② 鋼材販売
- ③ 実直に前向きに
- ④ まずは健康。停滞を打破し付加価値のある企業にする。
コミュニケーション能力の向上。



中田ホームズ(有)

中田 進

- ① 1979. 7. 17
- ② 建設業
- ③ 量より質
- ④ 社員の幸せを第一に考え、地域から愛され、
100年企業を目指す。

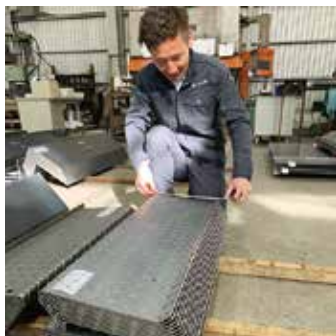


※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(有)八大鋼業
石原 一伯

- ① 1983.11.27
- ② 鉄板切断及び曲げ加工及び製缶
- ③ 思いやり
- ④ 物作りを通して、思いやりの輪を広げ、信用できる会社を目指す。



(株)八徳運送
井上 心聖

- ① 1985.1.25
- ② 運送業
- ③ 為せば成る 為さねばならぬ何事も
成らぬは人の 為さぬなりけり
- ④ 全国を範囲にできる規模に営業所展開をする。
筑豊に八徳運送ありと言われる存在になる。

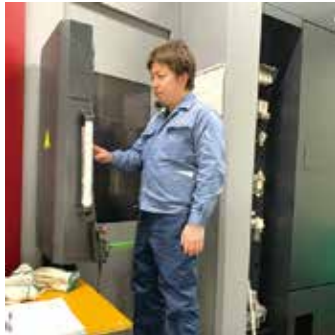


※実際の作業風景とは異なる場合がございます



福智産業(株)
栗原 佑典

- ① 1987. 1. 16
- ② 機械加工
- ③ 笑われていこうじゃねえか
- ④ 停滞することなく、常に新しいことへの可能性を見出すことを意識していきたい。



(株)古野鉄工所
古野 雄次

- ① 1985. 7. 25
- ② 機械加工
- ③ 臥薪嘗胆
- ④ 客先のニーズに応えるべく、
更なる技術発展・品質向上を目指していく。



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



Paint Works (株)

一木 知良

- ① 1994.12.7
- ② 塗装
- ③ 時事の初心忘るべからず
- ④ 私も30代になり、会社の顔として
恥ずかしくない人間を目指します。



(株)松本建築工房

松本 裕嗣

- ① 1998.1.14
- ② 木造大工
- ③ よい花は後から
- ④ 今までしてきた事を糧に更に技術を磨き今までなかった
新しい事に挑戦して社業の幅を広げていきたい。



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(有)マルヨ

與古光 大輔

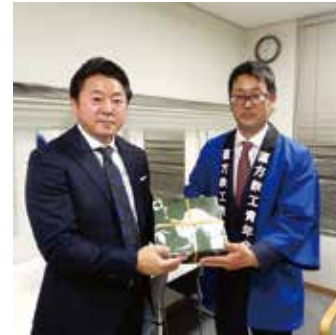
- ① 1987. 9. 25
- ② 製缶
- ③ 馬鹿と天才は紙一重
- ④ 何事も前向きに全力で取り組んでいき、
自分のカラーが出るような会社を目指す。



(株)水摩組

水摩 竜登志

- ① 1979. 6. 18
- ② 土木工事業
- ③ 第55代会長スローガン 志 ～やる時は全力で～



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(株)山岡
佐藤 精治

- ① 1983.2.16
- ② 解体工事業
- ③ 有言実行
- ④ 現場一辺倒でしたが、この先の未来、
会社に貢献できる人財の育成に尽力していきます。



(有)山龍
山岡 正林

- ① 1987.1.28
- ② 解体工事業
- ③ 自分らしく
- ④ 無事故を目指す。作業後もキレイに。信頼される会社に。



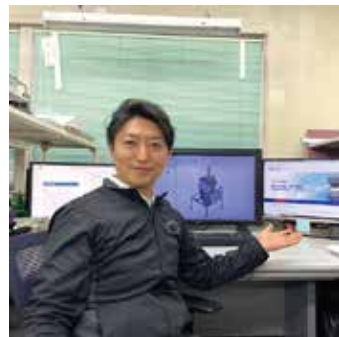
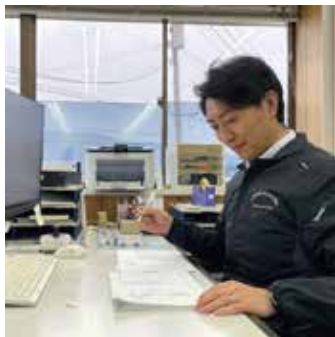
※実際の作業風景とは異なる場合がございます



(有)吉成図工舎

吉成 雅仁

- ① 1985. 8. 20
- ② 製図・カタログ作成
- ③ 失敗は成功のもと
- ④ 思い上がり、臆することなく、
常に冷静で的確な判断・行動・指示ができる経営者になる。



※実際の作業風景とは異なる場合がございます



大塚市長

大田会長

香原県議

創立60周年記念誌 特別企画 座談会

～ 産業 そして 未来 ～

出席者

- ◎大塚 進弘 様(直方市長)
- ◎香原 勝司 様(福岡県議会議員)
- ◎大田 幹治(直方鉄工青年会 第60代会長)
(司会 山岡 正林)

開催日

令和7年1月24日(金)

開催場所

直方市役所 応接室

司会

それでは直方鉄工青年会創立60周年記念座談会を始めさせていただきます。
本日司会を務めさせていただきます山岡です。よろしくお願いいたします。
まずは公務など多忙な中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。
早速ですが、一つ目の議題に入らせていただきます。

「産業」～直方市の今と今後について～

司会

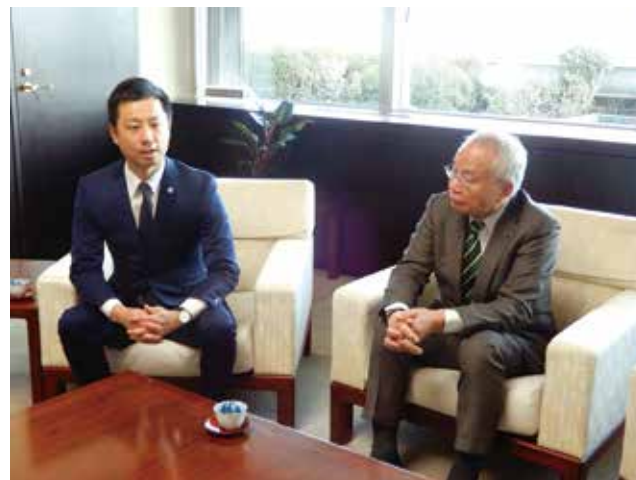
一つ目の議題として「産業」についてお聞きしたいと思います。
まずは大田会長からお願いいたします。

大田

わたしたちは会の名の通り、多くの会員が鉄工業に属する会社の経営者および次期経営者でございます。ものづくりの会社で多く耳にする問題の1つがまず労働力不足です。雇用がうまくいかず、または定着しないなど、多くの会社が外国人技能実習制度を活用している状況とお聞きしています。もちろん自社の魅力を磨くことが第一ではございますが、直方市としてそういった問題に対して何か対策や支援などありましたらお聞かせください。

大塚

直方市としては現在地域の会社と合同説明会などを工業係が行っています。大学新卒よりも高卒をターゲットとし、地域の高校などにも説明会を行うなど多方向からのアプローチで行っていくよう心掛けている状況でございます。それでもあってもなかなか人材の確保には至っていないという事実もまた認識をしている状況でございます。それでも足りないという場合には副業兼業人材なども視野に入れどうしても正社員というわけではなく柔軟な対応も必要になってくるのではないのでしょうか。
地方での人材の確保というのはそれほどまでに難しい時代になっていると感じています。



大塚

また、違う角度からになりますが、現状の社員の方々をどうスキルアップさせていくか、またその力を使って違う分野に目を向けるなど、企業を展開していくことも最終的には雇用へつながると思っています。それぞれの会社が独自で行うことはなかなか難しいと思いますので競合との連携や、大学や研究所などと共同開発をできれば産学官連携として後押ししやすくもなります。

また、地域おこし協力隊などと協力したり、様々な方法はあると思います。ただそれが結果に直接繋がるわけではないと思いますので、やはり大事になってくることは企業が夢を持って魅力あるものにするに尽きると思います。

私たち自治体にも同じことが言え、今後そういった組織にしなければ人材の確保が難しくなっていくのではないかと感じています。

大田

直方市の特に鉄工業において、自動車産業やロボット産業に関わるものが多いと思いますが、時代の流れから製造内容が変わっていく中でそこにしっかり対応をしていくこと、さらにはそこから新しいビジネスチャンスを模索していくことで将来的に魅力ある企業へと成長することが大事ですね。

どうしても既存の取引先との業務に頼っている部分があり少し保守的な部分があるので、今後はチャレンジ精神を持って社業に取り組んでいきたいと思っています。

香原

企業の人手不足というのはもちろん深刻な問題であるのですが、日本全体が人口減少の傾向にあるということを考えると自然な流れではあります。少なくなっていく就労希望者を多くの企業で取り合う中で、中小零細企業が勝ち取っていくことは簡単なことではないのではないかと思います。ですので、やはり先ほど大塚市長がおっしゃった通り、今いる社員の技術の向上そして新しいことに取り組むことが大事なことだと感じます。

加えて大事なことは、やはり給与面ではないでしょうか。大手企業では賃金のベースアップが成され、政府は日本の給与が上がっていると発表しているが、全体で見るとそうではありません。なぜ賃金が上がらないか、その理由として価格転嫁がうまくできていないことが大きな要因だと思います。製造コストや運輸コストなどが増えていく中で単価にうまく上乗せをすることができないといった問題を抱えている企業も少なくないです。価格を上げれば仕事が減る可能性もあり思い切った変更も簡単ではないでしょう。その点からすると、経営者として大事なことは価格を上げて求められる企業になるため、独自の技術や対応力の向上を目指すことは念頭に置かなければいけません。



大田

確かに私の会社でも価格転嫁がうまくいっておらず問題を解決できずにいる状況です。解決策の1つとまでは言えませんが、1つのプロジェクトを競合他社と協力し、自社だけでは行えないものを複数の企業で行うことも増やしていこうと思っています。

香原

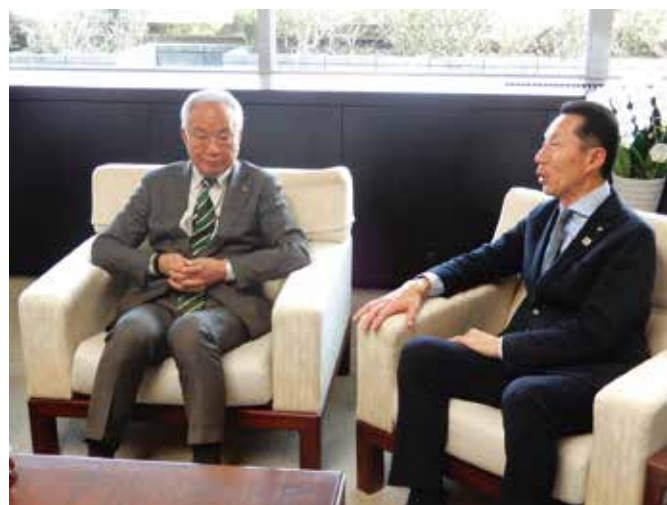
1つの案件に対して複数の企業で対応することで、生産コストや人員コストを下げることになると思うのでそういった対応も良いと思います。また違う観点からすると、消費者の方々に対して厳しいことを言うことになってしまいますが、物価が上昇していて買い手がそこに追いつかなければ賃金の上昇になかなか繋がっていかないと思いますので、その点に関しては国と協力して福岡県からも発信していかなければならないと思います。

大塚

直方市というのは県の中でも、人口密度に対して製造業の数が圧倒的に多いんです。でするので企業や経営者に対しての自治体の政策などが成功すれば、モデルと成り得る市なんです。裏を返せばそれだけ難しいことでもあるのですが。(笑)

香原

直方市でうまくいけば県全体でうまくいくと言って過言はないと思いますね。またこの直方市、直鞍という地域は良くも悪くも昔から多くのものが残っています。良い点として、それだけ幅広い業種や技術があるということです。地理的利点もあり、まず北九州に近いということ。現在北九州は成長著しいところでありますのでそこと連携することができれば新しいネットワークはもちろん、ビジネスチャンスが見えてくるのではないのでしょうか。



大田

チャンスを目の前にした時にしっかり対応できるように準備しておかなければなりません。アンテナを張って心構えをしておきます。

「組織」～代表者として心がけていること～

司会

今回お集まりいただきました方々は立場は違えども、組織をまとめるべき代表者の方々でありますので組織を運営する上で心がけている点などありましたらお聞きしたいと思います。まずは香原県議よりお願いいたします。

香原

最初に県議会というものを簡単に説明する必要があると思います。現在、県議会議員は87名で構成されています。これが1つの組織として、加えて県を代表する県知事がおられます。これを二代表制といって県議会というものを構築しています。

現在私は県議会の議長を務めさせていただいておりますが、まず一番大事なことは県知事としっかり議論をすることができるといことだと思えます。そのためには、県議会議員という組織がしっかりとまとまっていなければなりません。ですので私が心がけていることは「聞く」ことです。それぞれ地域を代表して議会に来られているので、様々な意見をいただきます。その一つ一つの意見をしっかりと聞き、議長として最終的に答えを導き出していくということになります。全員が必ずしも得をし納得するようなことはなかなかありませんので、まずは「しっかりと耳を傾け、一度飲み込んで議論をしていく。」これに尽きるのではないのでしょうか。

大田

私たち鉄工青年会は県議会とは全く違う組織ではありますが、各個人それぞれが代表として集まっているといった点は共通する部分だと思います。会の運営で議論することも多く、今香原県議がおっしゃった「聞く」ということの大事さはとても胸に響きました。残りの任期しっかりと活かしていきたいと思えます。またその経験を社業にも活かし私自身もスケールアップしたいと思えます。

香原

共通する点で言うと県議会も意外と体育会系だったりしますよ。(笑)

大田

そうなのですね！でもやはり大事なことはパワーではなくバランスであると。(笑)

香原

やはり組織として年長者の意見は聞きながらも後輩たちの意見も交えつつしっかりとバランスをとって取りまとめることが大事ですね。

司会

続いて大塚市長お願いいたします。

大塚

まず我々行政の需要は多様性の点から増加傾向にあります。しかしながら、サービスの対象となる人口は減少傾向にあるので、行政の職員も併せて減少していかなければいけないと思います。ですので今いる職員に人材投資をして、いかに効率よく、より少人数で行政サービスを高めていくことをできないかと常に考えています。ある部署で人員不足に陥る可能性があったとして、そこでしっかりと知恵を出し、解決策を見出せるような職員を育てるということが理想ではありますね。



大田

会社に置き換えて考えれば、今大塚市長がおっしゃられたことがとても大事なことであると感じました。社員のモチベーションを上げ、自分から考え会社の成長を意識するような社員の育成に力を注がなければいけないですね。そのためにも先ほど話にあがった賃金を上げること、会社の魅力を磨くこと、やはりこれに尽きると思いました。

大塚

あとは職員がしっかりとパフォーマンスを発揮できる環境を整えることも大事だと思います。例えばオフィスの環境もそうですが、身体的ケア、精神的ケアも行っていかなければパフォーマンスの維持が難しくなると感じています。

大田

私たち製造業ではオフィスとはまた違う作業現場でありますので、そういった点は特に気をつけなければいけませんね。さらには事故などにも気を配らなければいけません。経営者として社員が安全に働ける環境を提供できるよう心掛けていきます。

司会

大塚市長、香原県議、お二方ともありがとうございました。

これにて記念座談会は終了となります。最後に大田会長より一言お願いいたします。

大田

我々直方鉄工青年会は60周年を迎えることができました。これも皆様のご協力のおかげであります。ありがとうございます。変化を求められる時代にしっかりとチャレンジ精神をもってトライしていく、今日のお話から改めてそう感じる一日となりました。今回の話を糧に私自身はもちろん、会員全体が成長できるよう全力で取り組んでいく所存でございます。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

本日は貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

1年間の事業風景

4月

通常総会

第59代石原会長から第60代大田会長へ
新体制に移行する総会



5月

スタートアップ事業

60周年に向けて
会員の団結力を高める事を目的とした事業

6月

60周年記念式典・懇親会

関係各所に第60代大田会長を盛大にお披露目する

日時:令和6年6月8日(土)

会場:エクセレントガーデン



自由民主党 最高顧問 衆議院議員
麻生 太郎 様



福岡県知事
服部 誠太郎 様



福岡県議会議員
香原 勝司 様



福岡県議会議員
花田 尚彦 様



直方市長
大塚 進弘 様



直方商工会議所 会頭
谷 弥壽彦 様



直方鉄工協同組合 理事長
吉田 祐司 様



一般財団法人 直鞍情報・産業振興協会
直鞍産業振興センター センター長
神谷 昌秀 様

懇親会風景



7月

健康増進事業

健康に関する知識を学ぶ事業



8月

家族対象事業

家族と共に楽しい夏の思い出を作る事業

9月

60周年記念旅行

60周年を祝して特別会員の方々との親睦旅行

日時：令和6年9月7日(土)～8日(日)

場所：旅程 佐世保～長崎

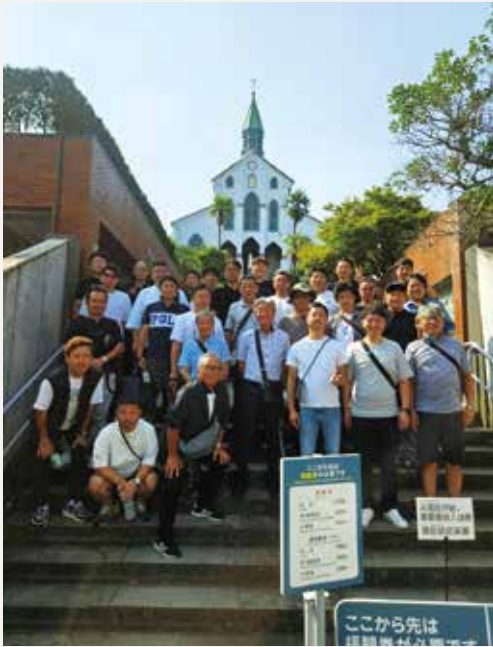
1日目 軍港クルーズ～稲佐山観光ホテル

2日目 グラバー園～中華街



佐世保にて軍港クルーズ

稲佐山観光ホテルにて懇親会



グラバー園にて散策

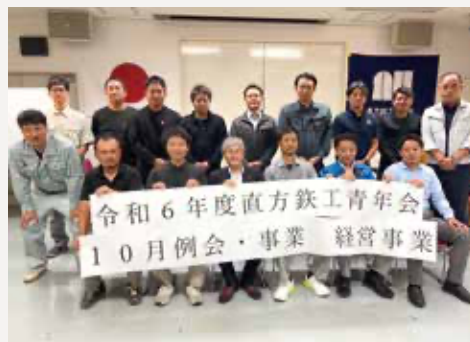


中華街にて食事

10月

経営事業

銀行との付き合い方、
資金調達に関する知識を学ぶ事業



11月

スポーツ事業

運動不足を解消するため、大運動会を開催

12月

60周年記念事業 少年野球教室

地域貢献を目的とし、
少年野球教室を開催した

日時:令和6年12月1日(日)

会場:光陵グリーンパーク 多目的グラウンド

講師:元福岡ソフトバンクホークス

柴原洋氏、攝津正氏、森福允彦氏、

福岡ソフトバンクホークス

三森大貴選手





参加チーム

新入ファイヤーズ

感田トータス

小竹ガッツ

若宮ペガサス

宮若ホワイトファイターズ

上頓野バットボーイズ

鞍手ベアーズ

1月

特別会員合同 新年会

特別会員の方々との交流を深める事業



2月

通常総会

来年度の会長及び役員を選出する総会



令和6年6月 創立60周年記念式典にて

石原 古野 佐藤 坂田

西田 (司会) 渡邊 松本 栗原 一木 金谷

小野 中田 吉成 大田 岩見 貝島 得居

〔 編集後記 〕



60周年実行委員会
副会長 貝島 一徳

まずは創立60周年記念誌制作にあたり、関わった全ての方々に感謝を申し上げます。そして60年という長い歴史を積み重ねてきてくださった先輩方、日頃より多大なるご支援ご協力いただいております関係各所の方々に厚く御礼申し上げます。

前年度より60周年準備委員会を立ち上げ、先輩方の過去の功績を知り、それを会員一同に落とし込み、周年事業経験者が少ない中でも、我々の色を出した周年事業を実施してまいりました。

この記念誌に於いては、“現会員を知っていただく”ことに重きを置き、各会員のイマを知っていただけるように製作いたしました。まずは我々を知っていただき、さらには大塚市長、香原議長ともこの直方のイマからミライについても対談をさせていただき、我々が担うべき課題を考えさせられる機会となりました。

最後になりますが、60周年が終わりこれから先の新たな歴史の始まりとなります。今回学んだこと、反省したことを糧にさらに会が発展するよう励んでまいります。

重ね重ねとなりますが、今後とも直方鉄工青年会を何卒宜しくお願い申し上げます。

60周年実行委員会

副会長 貝島 一徳
委員長 山岡 正林
副委員長 石原 一伯

副委員長 坂田 一生
担当監事 小野 龍平



NOGATA INDUSTRIES JUNIOR

直方鉄工青年会